



DOZE

ZZZZ

今日は、いつになくとってもいい気持ちだ。
 こんな風にぼかぼかと居眠りなんかしていると、なんだか不思議な感じがする。
 何だって僕は今こんな窮屈で不格好な体をしているんだろう。
 このシャツの袖から飛び出してる腕や、突っ張ったズボンから突き出した骨
 ばった足なんか見ても、ちっとも親しみが湧かない。
 自分の体じゃないって気がする。以前の僕はこんなじゃなかった。
 確かに、僕のこの体は僕の本当の体じゃない。
 僕ははっきり覚えている。
 体はもっとうんと小さくって、背中につけたキラキラ光る羽を羽ばたかせて、
 自由に飛び廻ったものだ。気まぐれに綺麗な花の中、あっちこっちと飛び廻る。
 そして立ち止まっては花の中の甘い蜜を吸うんだ。
 あの甘酸っぱくて、鼻の中がむずむずする感じははっきり記憶に残ってる。
 もっと日差しが強くなって、太陽がまぶしくなってきたら、
 今度は思いっきり、空高く飛び上がってそして一番高い所まで昇りきったら
 今度は急降下して、ぐんぐん降りていって、海面が見えてきたら、
 青く広がる絨毯を突き破る気持ちで勇気を出して、飛び込むんだ。
 そして海の中まで潜って行った。
 今度は体中がうんと伸びて、なんかすべすべして滑らかになってくる。
 皮膚の周りを海の流れが気持ちよくすべって行く感じだ。
 誰より早くぐんぐんと魚達を追い抜いて行く。
 小魚の群れが僕にビックリして逃げていくのが見える。
 小魚の群れが巻き起こした水の泡が、僕の体の周りを取り巻きながら
 まとわりついてくる。光も音もゆがみながら輝いている。
 水面を見上げると波の形がネガフィルムみたいに綺麗に反転して見えている。
 すると、さっきの僕みたいに水面を突き破って飛び込んできた仲間がいた。
 白くって鳥みたいに綺麗な奴だ。おーい！ 待ってよ！ 一緒に泳ごう！
 どんどんと追いかけて行くと、そのうち白い鳥は見えなくなった。
 僕をひとりぼっちにしないでおくれ。なんだか暗いよ。さみしいよ。
 あああ、息苦しくなってきた。もう、だめだ。苦しくて死にそうだ。
 本当にこのまま死んじゃうのかな。

COLUMN

鎌倉の猫事情 第二十八話



先日、いつもより少し足を延ばして鎌倉駅を越えて御成商店街の方へ
 買い物に出掛けました。町は夕暮れ時で、買い物に出た人たちや帰路を
 急ぐ人や車でにぎわっています。御成商店街を抜けると角に大きな八百
 屋さんがあり、ここはミルクホールに毎日配達してくれているお店でもあり、
 安くて品も豊富なので鎌倉の繁盛店の一つです。この八百屋さんのある
 交差点は、バス通りに面している上、江ノ電の踏み切りも交差して、時々
 大渋滞を引き起こす、狭い鎌倉の町の難所でもあります。さて、買い物
 を済ませて帰ろうかなという時のことです。江ノ電の踏み切りを渡って若宮
 大路の方へ向かうとした折り、運悪くキンコンキンと遮断機が下りて
 きました。まあしょうがないと踏み切り待ちをしていますと、やけにいつまで
 も鐘が鳴っています。踏み切り待ちをする車も人もだんだん増えてきました。や、どうにも長すぎます。そうしているう
 ちにやっと遮断機が上がり始めました。が、よくよく考えるとまた一台も江ノ電が通り過ぎていない気がします。ともか
 く、長い踏み切りに待ちかねた人と車がいっせいに踏切を渡り始めると同時、夕暮れの空いっぱい警笛を響かせ
 ながら江ノ電がゴォゴォと突進してきたのです。そのとき先頭の白い乗用車は踏み切りを渡り始めていました。
 皆その場に立ちすくみ、息を呑んで見守りました。江ノ電はキキキ〜と機械音を響かせ、ブレーキを踏みました。
 一触即発！ 大事故は回避されました。その距離ほんの3メートルばかりだったのでしょうか。しかし事故はまぬがれまし
 たが踏み切りは開いたままです。人も車も恐怖で動けません。江ノ電も立ち往生しながら、なにやら不満げに警笛を
 鳴らしつづけています。そのうちやっと遮断機が下り、町はいつもの表情を取り戻したのでした。この事件は翌日
 に鎌倉じゅうの噂になったことは間違いないでしょう。何しろ狭い鎌倉の町のことです。だれそれが今日のはめかしこ
 んで東京へ出掛けたのよとか、だれそれが酔っ払って車で転んだなんて話はあつという間に町じゅうに広がります。
 うちのゲーニーちゃんは、近頃夜中に駅の方まで足を延ばして遊びに出掛けているようです。そんな噂を耳にし
 ました。いったいそんな夜中に駅に何の用事があるんでしょう？ すみれちゃんは、お寿司屋さんの裏で寿司ネタ
 の残りのマグロのきれっぱしをいただいているようです。そんな噂も耳にしました。長女のすみれと、あの参議院選挙
 の日に産まれた弟のクウは家の中では喧嘩ばかりしていますが、おもてでは仲良しらしく、すみれはお寿司やさんに
 クウを連れてあらわれるらしいです。そんな時、すみれはお姉さんらしく自分がお味見
 して、そのあと弟のクウに食べさせてやるそうです。「すみちゃん、舌が肥えてるからね
 え。なんてったってマグロが好きなんだよ。そうまで言われると、恥ずかしいやら、申し訳
 ないやら、気まずいものです。まったうちの猫達ときたら外で何をやってるんだか…



ゲーニー、スイービーと、長女長男の4匹家族を形成したファミリーは毎日のように事件を
 引き起こしてくれます。仲が好いんだか悪いんだか。でも一度だけこの一家が団結したの
 を見たことがあります。次回はそんな一家の珍事件のお話です。

to be continued

海の底は真っ黒で深くって、とても怖いよ。
 光も音もない世界だ。
 何か、かすかに遠い所から聞こえてくる。
 誰かの声が僕を呼んでいる。
 ここはいったいどこなの？
 ここは…なんだろう、白い壁が見える。
 つんとして、消毒液みたいな嫌な臭い…
 懐かしいような気もするけど。
 誰だろう、僕の事を呼んでいるのは？
 僕はもうへとへとに疲れちゃった…
 ものすごく眠い。
 もう、僕の事は呼ばないでね。
 このまま眠ってしまいたいんだから…

